

令和 7 (2025) 年度

学校推薦型選抜 (公募制)

法学部

入学試験問題

英語 9:30～10:30(60分)

論述 10:45～11:45(60分)

令和7(2025)年度 学習院大学 学校推薦型選抜(公募制)
法学部政治学科 論述 問題用紙

【解答上の注意】

- 1 問題用紙は1枚です。
- 2 解答は別紙の解答用紙に記入してください。
- 3 解答用紙は1枚のみで、裏面も使用可です。
- 4 設問順に解答してください。

つぎの文章を読み、下記の設問に解答してください。

「書く」ことは自己の立場を明確にさせ、したがって自己をコミットすることである。私はこの書物を書きながら、そのことを改めて感じた。

これまで私は、日本の外交政策や安全保障政策などの具体的な問題について、私の考えを展開してきた。もちろん、その基礎には私の基本的な考え方があったし、また具体的な問題について論ずることは、私の考え方を固めることになった。国際政治に対する私の考え方は、そういう過程をたどって形成されてきたと言えるだろう。しかし今、改めて国際政治について一般的に考えてみると、それが私の今までの議論を原理的に確認することになると同時に、今まであいまいであったところについて、より深く考えさせられることにもなった。(中略)

たとえば、ある特定の状況において軍備を持つことの可否を述べることは、軍備についての基本的な態度を決めなくても可能である。それは、その状況におけるある主張とその効果を考えて云々できるからである。「今の状況では××するしかない」という論理構成や「必要悪」というような正当化の言葉は、昔からくりかえして使われてきた。それに対して、軍備と平和に関する考え方の原則そのものを明らかにすることは、「状況」という逃げ道を取りはずすことであり、あらゆる「状況」において守られるべき自己の立場をはっきりと確認することになるからである。

この書物は、ある具体的な措置を平和へのたしかな道として唱導することをせず、逆に、平和へのたしかな道は存在しないことを主張しているけれども、私がそれによって自己を確認したことには変りはない。私はこの書物において、具体的な平和のための措置をいくつか取り上げ、それらを検討した。それらはすべて不満足なものであり、平和の探求として讃えられるかわりに、大きな但し書きをつけて扱われるべきものであることがわかった。

われわれは平和について語る時、なんとなく抽象的な平和を考え、それにわれわれの希望を託し、現実の世界の恐怖と対比させてしまう。しかし、抽象的な平和などありはしない。存在する具体的な平和は、すべて但し書きを必要とする。そこにわれわれの置かれた苦境があるのだし、その苦境に直面することがわれわれのつとめなのである。

出典：高坂 正堯「国際政治」

〔設問〕

- I 文中の下線部「存在する具体的な平和は、すべて但し書きを必要とする」という箇所において、筆者は何を説明しようとしているのか。解答用紙5行以上、8行以内で論じてください。
- II この文章のなかで自分が関心を持った筆者の主張は何か、その理由や根拠とともに、解答用紙8行以上、10行以内でまとめてください。
- III この文章のなかで自分が関心を持った筆者の主張について、疑問、是認、反論、ないし批判的検討を解答用紙15行以上20行以内でおこなってください。

令和 7(2025)年度 学習院大学 学校推薦型選抜(公募制)

※太線わく内は必ず記入してください。

志望学部	法学部	志望学科	政治学科	受験番号		氏名	カナ 漢字
試験科目	論述		備考	解答用紙 裏面使用可		採点欄	

Answer writing area with horizontal dashed lines.

